静岡県富士市 加島五千石総鎮守

米之宮浅間神社 社報

令和3年春号

手を合わせよう

寒さも和らぎ、春の兆しが少しづつ感じられる季節になってきました。

中国武漢市に端を発する新型コロナウイルスの感染拡大が日常生活に大きな影響を及ぼしておりますが、二月からは、ワクチンの供給が始まり、感染対策の新たな一歩を踏み出しました。科学が発達した現代においても台風や地震、火山の噴火、疫病などの自然災害は我々人間が制御することが出来ないまさに人智を超えた存在であります。日夜、政府や地方自治体、医療従事者等による奮闘が続いている中、私たちに出来ることは、自身が感染を広げることのないように気をつけることと終息を願うことではないでしょうか。今も昔も人々は大きな困難に直面することが度々ありました。例えば、京都の有名なお祭りである祇園祭は、疫病を鎮める御霊会が発展したものです。このように脅威に対して祈りを行うことは、古代から続いている人間の本質そのものなのです。

全国の神社では、日々感染症の終息が祈られています。私たちも神社や各家庭の神棚を通じた祈りにより一日も早く平穏な日々を取り戻したいと願うものであります。

米之宮浅間神社
役職員一同

お花見について

お花見は、今も昔も日本人が春の到来を感じることが出来る行事です。奈良時代は花と言えば「梅」のことを指していましたが、平安時代になると「桜」のことを指すようになりました。一説には、平安時代の嵯峨天皇は地主神社の桜を非常に気に入り、以降神社から毎年桜を献上させられたといい、そこから桜の花見は貴族の間で急速に広まったと言われています。平安時代に貴族の間で楽しまれたお花見は江戸時代になると庶民の間でも広まりました。この時代では桜の品種改良が盛んになります。日本各地で最も見られる「ソメイヨシノ」もこの頃に開発されました。

お花見の由来は諸説ありますが、貴族は花を観賞することを目的にしていたのに対して、農村では春になると山の神様が桜の木に降りてきて田の神様になり、その田の神様に豊作を願い感謝する行事として行われていたと言われています。

二十四節気について

古代中国で考案された季節区分法のことです。
季節は太陽の動きが影響します。太陽が移動する天球上の道を黄道と言い、黄道を二十四等分したものが二十四節気です。私たちの身近なことでは、冬至の日に無病息災を願う為に、柚子湯に入ったり、カボチャを食べたりします。季節を知るよりどころでもあるため、今でも年中行事や時候の挨拶などで使われています。
また他にも日本人の生活文化から生まれた季節の移り変わりを適切に掴む為設けられた暦日を雑節と言い、節分や彼岸などがあります。

神社の豆知識

お賽銭について

賽銭の「賽」にはもともと神様へのお礼の意味を表します。つまり「賽銭」はお願いが叶ったときや日々の平穏を感謝する際に捧げる金銭のことを表します。金銭が捧げられるようになる前の形態には神前にお米をまく「散米」や洗ったお米を紙に包んで供える「おひねり」などがありました。この散米が貨幣の流通に従って「散銭」になり、いつしか「賽銭」になっていったそうです。お賽銭は神様へのお願いやお礼の際の真心の表現です。お賽銭箱に入れる際には、神様に敬意を表すように丁寧に入れるようにしましょう。ちなみに新型コロナウイルス感染症対策で撤去されていることが多い賽銭箱の上に吊るされる鈴緒は、古くから神霊を招く道具として用いられていました。

◉神社からのお願い

神社では感染症予防に対し様々な取り組みを行っています。是非清々しい気持ちで神社にお参りして戴く為に、皆様におかれても感染症対策に十分に気を付けて戴くようお願い申し上げます。

神社や神道について詳しくは
左記のQRから
（神社本庁ホームページ）

神社では、厄除け・家内安全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・縁結祈願・安産祈願・病気平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。
いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。
ご祈願についてのお問合せは神社まで

《連絡先》
米之宮浅間神社　社務所
住所：静岡県富士市本市場五八二
電話：〇五四五（六一）〇八一七
FAX：〇五四五（六一）〇八二九